

2022.3.17 (木)
第30回例会
(通算3657回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



幸仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイRC)

月間テーマ	水と衛生月間
本日のプログラム	「地域力を向上させるための子供たちの学力向上・キャリア教育」(担当：プログラム委員会)
次週例会	嵯峨記念育英会奨学生卒業報告 (担当：嵯峨記念育英会委員会)

- ロータリーソング：我等の生業 ■ ソングリーダー：水口 喜文君
- 会員数 103名
- ビジター なし
- ゲスト 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵様
公益財団法人日本数学検定協会 専務理事兼事務局長 高田 忍様
特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 事務局長 生重 亮様

会長の時間 浅川 正紳副会長



お食事中の方は、そのままどうぞお続けください。本日、杉村会長が欠席のため代行させていただきます。決して感染で1週間休むという病気

でもありません。出張と聞いております。先ほど会社に車がいったような気がいたしますが、出張だと思えます。

もしかすると脇さんあたりから「いつも副会長は嘸んでばかりいるから、会長はたまに休んで副会長に喋らせる」という温かいお話とか悪魔のようなささやきがあったのではないかと伺っておりますが、しっかりと仕事をさせていただきたいと思えます。杉村会長に「何を話せば良いでしょうね」とお話をしたら、「私もやりましたけれど、自己紹介をしたらどうですか」と言われましたので、今更ですが自己紹介をさせていただきたいと思えます。

浅川正紳と申します。昭和40年2月16日釧路に生まれました。生まれた時は、今のパステルパーク(駐車場)の出入口がある辺りに昔は『くろんぼ』という喫茶店がありました。そこは祖父が開いた喫茶店です。ネーミングは今の時代にはふさわしくない気がします

けれども、昭和28年ぐらいに開店したと聞いていて、釧路で3番目に古い喫茶店だと思えます。そこで生まれた時は、私、母と父と祖父・祖母の5人が小さな喫茶店の2階で過ごしていたと聞いております。

小さいころ、家が鶴ヶ岱に引っ越して、おばあちゃんの所に遊びに行くと、下の喫茶店からガラスの器に乗ったアイスクリームやクリームソーダが飲めるので「遊びに行きたい」とよくせがんでいました。しょっちゅう「アイスクリームを食べたい」と言っている割には、斜め向かいに石田さんの『笹園』があるので、その「噴水のある喫茶店に行きたい」とか、子どもにはゾウの鼻に似せた長い風船がもらえたので「ゾウさんの風船をもらいたい」とごねたと聞いております。「自分の家が喫茶店やっているのにどうして行かなければいけないの」と祖母も思っていたらしいのですが、孫の言うことですからやってくれたのだと思えます。城山小学校と東中学校へ進みました。その三役席の5人のうち田内君は転勤族ですが、その他の4人が偶然にも東中学校卒業です。この中にも東中学校を卒業された方がたくさんいると思えますが、非常に厳しい学校です。全校集会で並んでいる時、一番前で振り向いている担任と目が合ったら、その場で「顔を動かすな」と殴られるような厳しい学校だった覚えがあります。その反動がいま出ているのか、何か物事に沿いたくない部分が少し自分の中にあるような気がいたします。

高校、札幌の大学と進み、アルバイトで知り合った女性が家内で10年ぐらいた遠距離恋愛をして結婚しています。

そうこうして、89年に釧路へ帰って来て、自分の会社に入社をするのですが、父親に「何も街のことが分からない。若者との接点がないのだから、何かに入らなければいけない」と言われて、96年に青年会議所に入会させていただきました。その翌年の97年に杉村君が入会してきます。その時はお互いほとんど話すこともなく、いつもニコニコして元気な人が入ってきた程度しか交流はなかったのですが、96年に父親が釧路クラブの会長を務めていたのかな、60周年だったと思いますので会社にはいない。私も青年会議所に入っていて会社には親子でないものですから社員は大変苦労をしたのではないかと考えております。

そうこうしているうちに、2001年、青年会議所には委員会配属がありまして、その時に偶然、脇さんと杉村会長と同じ委員会になり、そこに新入会員で得地君もいました。いま思えばよくお会いする人たちとその時に初めて会ったのだと。まさかその時は脇さんと会長・幹事をやるということも、杉村会長と会長・副会長、そして得地副幹事と一緒にいるということも思っておりませんでしたけれども、それも何かの縁でお会いできたと思っております。

そのような意味では、今日もこのように一緒にお昼を食べながら過ごしている皆さんとの縁も、もしかしたら数年後にすごいビッグビジネスのお付き合いをしているかもしれませんし、いろいろな出会いがあるのかと思います。

また、最近のテレビなどを見ておると、非常に暗い。コロナ感染がやっと終わったと思ったら世界情勢のいろいろな映像を見て、毎日、ちょっとどうかなという映像もあります。昨日は夜中に地震があって少々不安もありましたが、でも、やはり一番は皆さんとたった1時間ですが、一緒にお昼ご飯を食べながらの出会い。これを1日1日、重要に思って過ごさなければいけないとつくづく思いました。

どうして私になかなかロータリーに入らなかったかをお話をしたいところですが、ちょうどお時間になりましたので、この続きは機会がございましたらご紹介をさせていただければと思います。

本日は、1日どうぞよろしくお願いたします。

転勤挨拶

日本生命保険相互会社道東支社

支社長 廣部 雅資君

ただいま、ご紹介をいただきました日本生命の廣部と申します。ロータリーには、2年前の7月からですので、2年満了とまでは行けませんでした。以前に会長が、「地元の方は土の人、そして転勤族は



風の人」と。私がここで挨拶をさせていただく時に「土になりたい風の人です」というような自己紹介をしたことがありますけれども、あつとい

う間の、コロナとともにやってまいりまして、コロナと共に去って行く。もう風どころか突風で終わったというような2年間で、このロータリーに参加させていただき、皆さんに良くしていただきまして、この道東生活を本当に楽しく過ごすことができました。

徳島県に日本生命の支社長として転勤となりました。また、海があって山がある土地に行かせていただくので、ぜひこの釧路

で学んだことを徳島でも頑張っていきたいと思っております。

後任は、名古屋から伊藤淳という者

がやってまいりますので、後任ともども日本生命をどうぞ引き続きご愛顧いただきますようによろしくお願いたします。

本当に、2年間どうもありがとうございました。



■本日のプログラム■

地域力を向上させるための子供たちの学力向上・キャリア教育

プログラム委員会 木下 正明君

皆さん、こんにちは。今日の講師は、生重幸恵先生でございます。生重幸恵先生は、教育を改革して前向きに良い日本をつくって行こうという先駆者的な方でございます。各地でバケモノと言われております。なんと申すか、すみません。現在は、子ども家庭庁の野田聖子大臣のアドバイザーもお務めになっていて、地域の発展のカギはやはり学力向上やキャリアアップなどに通じると思っておりますので、皆さんも参考になるのではないかと思います。

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長兼子ども家庭庁大臣アドバイザー

生重 幸恵様

ありがとうございます。与えられた時間が結構短いので。簡単に自己紹介をします。私は平成14年に私



が居住している杉並区の学校教育をコーディネートするというので、5年間に亘って行政を上げて審議をしてきた中でできた仕組みの第1号で、「学校教育コーディネーター」に就任いたしました。

その時にとっても理解を示してくださったのが城西ロータリークラブです。私が特にお世話になったのは大成ユーレックのトップを務めていた方ですが、その方は私たちの活動にすごく近しさを感じてくださって、自分の城西ロータリー、それから親しくしているロータリアンに声をかけて、ロータリアンの学校教育へのコーディネートをその方がやってくださって、杉並区を中心にロータリアンがいろいろな学校へ行って講義をしたり、都立高校で職業講話をしたり、自分の体験を語ったり、自分の会社の社員を連れて行き「このような仕事にはこのような価値があるよ」みたいなことを語ってくださる、とても意義のある「働くこと」「大人の姿」を子どもたちとつないでくれたとても素晴らしい方で、いまま実は杉並区の学校で委員をしてくださっています。

スライドのタイトルが少々難しかったのですが、私の紹介は冒頭ありました通りなので割愛しますが。

20年に亘って文科省・厚労省・農水省などのいろいろな委員をやってきて、それで声がかかって、昨年からは野田さんから「大臣アドバイザー」ということで、4名が選ばれ月に1回ズームで会議を実施しています。いまは国会中なので次は4月開催になりますが、野田大臣といろいろな情報共有をして活動をしています。

時間がなくて、ものすごく走りながら話します。経営者の皆さま方なので、よくお分かりと思いますが、日本は確実に変わって行かなければいけないし、変わっている。コロナ禍で激変していることをご存じだと思います。学校はIT化され、タブレットPCを子どもたち全員が持って学習をする状況に既になっているわけで、それができていないとしたらばかなり遅れているということです。

実を言うと、アジアの中で日本はその面では本当に負けています。立ち後れていると言っても過言ではない。そして少子高齢化の進展、社会格差の増大、地域社会と家族が変わってしまっている。産業構造・雇用の変化がある。グローバル化が進展している。もう経営者の皆さま方はよくお分かりのことだと思いますが、これは地方だけの問題ではなく、アジア圏全体にこの問題はあるのですが、今、日本の中でこの課題と真剣に向き合っていない限り、街というものが成立していかなくなると思っています。

これも20年前から言われています。「今から20年以上後には、いまの子どもたちは、大学を卒業してもいまは存在をしていない職業に付くことになる」と言われている。おまけに私たちの生活の中も、これだけ

IT化が進んでいるわけです。私と同じくらいの世代の方は、駅では「ピッ」とやらなくても、人がいて、カチャカチャとやってくれたでしょ。銀行も30分も40分も待って、書いた物で下ろしたり振り込んだりしたじゃないですか。いまは4桁「ピッピッピッ」とやれば何でもできます。それだけ日常の身近なところに時代の変革は必ず自分が体感をするところに来ている。

これは、内閣府がホームページで示しています。これからは新たな社会、『society5.0』に入っていきます。私たちはずっと時代をさかのぼって農耕から工業化社会で、つい先日まではクラウドに情報を上げて、それを下ろしてきて自分たちで編集して、世の中の物事を考え次の推移を読んで、展開をしていく。皆さま方がまさしくそういうところの最前線にお立ちになっている方々ですよ。でも、いまからは、情報処理はすべてスーパーコンピューターがやってくれて、私たちはそれをどう活用していくかをいち早くどう解決するかを考えなければいけない。おまけに環境問題、釧路は海と山に囲まれていますから特に釧路湿原の問題もありますし、日々いろいろ考えていることがあるでしょう。けれども、私たちの周りで取り組まなければいけないSDGsもあります。これは、2030年までに解決しなければならず、どの事業体も、それから私たち一人ひとりの人間もこれに向き合わなければいけないのです。

まさしく、先ほどの城西ロータリーがやってくれたことを、釧路ロータリーの方たちが学校へ行って、自分たちの仕事の中にどうSDGsを活かしているのかを話していただくだけでも、「なるほど、SDGsは身近な仕事の中で、このように考えられて、私たち・僕たちが生きていく社会を良くするために様々な工夫がこらされている」ということがリアルな学びとして子どもたちに伝わるのがとても大切ではないかと思っています。

これまでの社会とこれからの社会。いまから求められる力というものは、「ドリルが解ける」「問題集が解ける」「人よりもたくさん練習をしたら、難しい問題が解けます」ということではないのです。自分で考えて、自分たちで答えを見出して・果敢にチャレンジをする人材です。そのような人材を育成しない限り私たちが住んでいる街に未来が生まれません。

それは、学び続けられる人を育成していくことが重要だというのが一番のポイントになっていく。そのためには、「学校・教育委員会に教育はお任せだ」ではなく、皆さま方のように社会の中で活躍している方たちが、いかに「君たちみんなが学んでいることが未来につながるのか」を問いかけて、自分から答えを探していけるようなつながりを子どもたちと持つていくことが必要です。小学校・中学校・高校・大学といろいろな形

でつながりを持っていただくことがとても重要なのです。それが生涯に亘って学び続けられる。新しい仕事を生み出していくことも、学び続けられて物事を考えられる素地があるからであり、それは次を生み出していくことにつながっていく。

これは今回、釧路におじゃまをするにあたって釧路のデータをいろいろ見ました。唯一、1枚だけ入れて来ました。こんなに人口が減っていくのですよ。釧路が消滅しちゃうかもしれません。私は全国へ講演で訪問しています。そこで感じるのは、若いお姉さんが魅力を感じて住んでくれない街は、若い男が残らない街になるのです。

なるほどねと思います。香川県へ行った時に校長会の研修で呼ばれたのですが、「なぜ香川は割と小さな街で、元気があると思いますか」と校長先生たちに質問をしたら、みんな首をひねるのです。香川はいたる所におしゃれなカフェがあって、ちょっと小高い山の上には素敵なお店があります。香川大学と一緒に開発をした『太らないレアシュガー』というものがあって、それを使っていろいろなデザートを生み出しています。もちろんそれはダイエットが主目的ではなく、糖尿病など病気のために開発されたもので、希少糖と言います。それから、うどんが安くて190円で食べられる。町中におしゃれなブティックがある。中国四国の中で唯一のブランドショップが香川県にはある。それだけ若い子たちが住んでいる。女性が魅力を感じる街になっているから、心の中で「住んでいて、良い」と思う面白い街であるのです。ただまだまだ生まれ変わらなければいけない課題を私の中では感じているのですが、香川県も15～16年関わりながらいろいろなことを一緒にやってきていて、日々変革を起こしてくれていると思います。

この社会の変化に追い付いて行くためには、これからの社会で生きていく・働く子どもたちをどう街につなぎ止めることができるのか。ひいてはそれが「従来と同じ教育内容で本当に良いのか」「上から一方的にブラック校則で、俺たちの言うことだけ聞いていれば良いのだと言って押さえつける教育で良いのか」「自分たちで考える頭を持てる子どもたちを育てるのではないのか」という論点に通じるところがあるます。その様な論点を解消していくことにより「学び」が変わっていきます。

この学びの変わりについて文部科学省もきちんと教育課程の変更で、いまから小・中・高の教育はかなり劇的に変わって行きます。「個別最適化」といわれる一人ひとりに向けた教育をどう提供していくのが大事です。私は中央教育審議会に10年所属していて、大学入試改革にも携わったのですが、やはり変化に対応して、自ら課題を設定して、答のない問題に解を見出すために他者と協働をする。実行・実現することがで

きる力を身に付けてほしいから大学に行かせる、大学教育とはそういうことだと考えている。大学入試の志願者の能力、意欲や適正を多面的総合的に評価していくことが重要ということが打ち出されたわけです。

新しい学力観としてこのようなことが示されています。かつては十分な知識技能を習得していれば良かったのです。そこに、「思考して判断力がついて、表現できた方が良い」ということがプラスされて、これからの教育には、「主体的に関わり、多様性を認めつつ協働していくことが大事なのだ」と。それは学校だけでできるのでしょうか。社会全体が一丸となって取り組むことこそが次代を担う子どもたちを育てていくということにつながっていきます。

では、釧路で何ができるのか。教育委員会は、ここにいるお歴々、素晴らしい皆さん、才能を持っているいろいろな仕事をしている方たちを受け入れてくれるのか。いまは受け入れられないのです。教育関係者の方がいたらごめんなさい、釧路は割と固いのです、固い。面倒くさいのかな。本当は年間スケジュールの中で、素晴らしい経営者の方に来ていただいて、いろいろなお話をさせていただくこと、体験をさせていただくことは子どもたちにとってものすごい刺激になって、何を学ぶかに気付くことにつながっていくので、東京城西ロータリークラブのトップの方が杉並区の教育への理解が深かったから首長とマッチングして、どんどんいろいろな展開ができたこともあります。でも皆さま、諦めていたら釧路から若い人が消えてしまうじゃないですか。大学で外へ出たら戻って来ないじゃないですか。

でも先ほど、ご挨拶をしていた方の話を聞いていて、なるほど札幌へ出ていたけれど釧路へ戻って来た。そういうことが大事なのです。「カムバックサーモン」、釧路に魅力があって、戻って来て、いま釧路のロータリーアンになっているということは、釧路に大きな貢献をしているということですよ。そういう人材をわれわれ・皆さん方とともにどう育てていくかということが大事なのです。

これからの学びの方向性はこのようになっています。「何を知っているのか」「何ができるのか」「知っていること、できることをどう使うのか」「どのようにより良く社会・世界と関わって、自分自身がつかみ取り、いい人生を送るのか」「変化の中に生きる社会的存在としての力を付けることが大事だ」と文部科学省は全面的に打ち出しているわけです。なおかつ学習指導要領、これは学びの基本で、打ち出されたものの方向性で学校が動きます。

学校の学びは、将来につながっているのか。志望大学へ合格するためだけの学びではない、そこから先が大事なのです。皆さま方は十分な経験の下で、そう思っています。いくら東京大学を出ても何の役にも立たな

い人たちも世の中にはいるわけです。
中卒だって、高卒だって、こんなに街のために貢献をする事業を展開していることもある。仕事をするのは、様々な可能性を秘めていることの方がより重要なのです。生きる力をどう身に付けるのかが大事です。だから人工知能がすごく進んでIT化が進んでも、文部科学省は言っています。「そうではないよ。人間の学習だよ。人として自立して、人として魅力を増やすことが大事だよ」と。でも、親だけで、学校の先生だけが関わっていてもそれは育ちません。より多くの人に関わり、より多くの方のお話を伺ったり、生きる姿を見せていただいたり、お仕事の現場を見たり、「なるほど」と自分自身が心を揺さぶられることが大事なのです。そうではない限り、自ら学びたいという主体的な学びにならないです。だから体験を取り入れた教育が必要なのだということで、『キャリア教育』という言葉が一般に普及しだしたわけです。このようなことを繰り返し行っていくことの中で、体験・経験をして、それでキャリアというものを考える。キャリアという言葉は別にキャリア官僚でもキャリアウーマンを指す言葉ではない、生きていくということです。キャリアの元々の語源は、荷馬車を引いた後にできる『わだち』を指してキャリアと言います。どう生きていくのかという自分自身の指針、自分自身の進む道、それを自分自身が考え続けることが『キャリア・生きていく』ということです。
この写真は、皆さまのような方たちを学校にお呼びして、子どもたちがそれぞれの教室に分かれて授業をした後、最後にまたお礼を言っている。コロナの前だからこんなに密ができましたけれども、企業の方たちに入っただけで様々なことを行ったりもしていません。これからの学校教育は、実社会につなぐ企業のリソースを活かす。学習意欲・習慣形成につなげる地域ならではの故郷のアイデンティティーをどう確立するのが大切ですか。
私は、釧路をすごく魅力的な街だと思うのですが、釧路の学校は、釧路湿原についても、今日午前中におじゃました猛禽類医学研究所についても、いろいろな被害にあって保護されている鳥たちが飼われている所ですけど、そのことを学んだりもしない。マリモのことも見たことも聞いたこともない。「なんでやねん」というところに置かれている。どうして教育と地元が離れているのかすごく不思議なのです。
こうやって他者へ働きかけて、他者と協働して、外部との相互作用を起こしていくことで子どもたちが気付いていくことが大事なのです。子どもを中心に、学校教育・家庭教育・社会教育を意識する中で、皆さま方こそが社会教育の最前線にお立ちになっている方たちです。そのような皆さんと学校をつないで地域のネットワークを作ることがすごく大事なのです。

いま釧路ではまだ一般的ではないのですが、文部科学省はコミュニティ・スクール（地域運営学校）というものを全国に推し進めようとしています。この良さは、体験をしてみないと分からないのです。その体験をしていくことの中から地域とともに学校経営をしていくということは、子どもたちの次の段階に対しての未来が開けていくことになります。

今日は、もう時間がないのでここを詳しくは言えないのですが、これは日立製作所が入ってユニバーサルデザインを行っているところです。これは野村総合研究所さんと一緒にお店を経営することを授業で行っています。これはバンダイさんと一緒にエコについて学んでいるところです。このようなことを行いながら子どもが身近に体験することを通して、企業が伝えたいことが、即ち学んでいることのベースにつながっています。それが社会・地球すべてを良くしていくことにつながっていくのだということを意識して、一緒に行うことによって子どもたちは確実に変わっていきます。

私が釧路と一緒にやりたいと思っていることは、非認知能力を高めるといえるものです。学校で学んで成績が付くことを認知能力と言います。認知能力を高めていくためには、非認知能力を高めていく必要がある。非認知能力というものは、「やってみた」「成功した」「失敗した」というものです。皆さま方は小さいころ、山に登る。木の上に基地を作る等、子どもたち同士でいろいろな体験を積んできた、という方もたくさんいるはずなのです。しかし、いまの子どもたちは何ひとつできません。全部危険だからと、禁止されています。その割に、「ゲームばかりやっている」と大人は文句を言います。そんな文句を言っている場合ではないのです。「ゲームだけを学んで、何億円を稼げる人になっていくか分からない」という社会がもうここに来ている。では、どのような体験をさせるのか。うんと小さいころには、体を使ってバランス感覚を整えながら自分自身が解き放たれるようなことをしなければいけない。

この人は「非認知能力」というものを提唱した経済学者さんです。この投影資料が必要な方は、送ってありますのでもらっていただければいいと思います。ここにも書いてありますが、この『非認知の社会情緒的スキル』というものを伸ばしていくことが、将来チームで仕事をするとか、自分自身が誰にも頼らずに判断できるとか、そのようなところに結び付いていくことになっていきます。これを私は某企業と一緒に『アックス・プロジェクト』と名付けています。

認知能力を伸ばすためには、非認知的能力を伸ばしていくことが大事なのです。あまり身近に感じたことがないかもしれませんが、発達障がいといわれる「すごくとがって、ものすごくいろいろなことができるのに、

ここだけ極端にできない」とか、「なぜこの判断が付かないのか」ということが今かなりの確立で、いろいろな年齢層の中に存在しています。「なぜ、俺がこれだけ親切に教えてやったのに、どうしてこれだけ意識ができないのだ」と思われた経験がある方もいるかもしれません。しかし、それは決して社会の中で生きないわけではないのです。その方に対してどう対応していくのが一番問題で、そのようなことを一緒に判断しながら学校教育の中で、それぞれの適正、個別最適化という学びをし、子どもたちが力を付けて、それがいずれ社会・経済の発展・発達につながっていくと思うと、より多くの大人が児童青少年の個性特性を理解して、関わることの重要性をご理解いただけると思います。

本当に短い時間だったので、今日は私からは以上ですが、また何かの機会がございましたら、もう少し長いバージョンでいろいろなことを丁寧に話しますので、そのような機会がありましたら、また聞いていただけたらと思います。

本日は、お耳をお借りして、いろいろなお話を聞いてくださってありがとうございました。失礼いたします。

副会長謝辞

それでは、謝辞をさせていただきます。まずは、生重様、本当に短い時間でグッと詰めてお話いただきまして申し訳ございません。限られた時間で本当にありがとうございます。

他地域のロータリー活動や釧路の人口減による衰退に

も危惧していただきまして、本当にドキッとするようなお言葉もいただきました。

その中で、いまも認知能力と非認知能力の言葉も含めて、この街に住む私たちがこれからもここで生活をしていくわけですが、若い人が残るような街づくりをしなければいけないというところでは、若い人が働きやすい雇用も必要ですし、雇用の安定を心がけていければ、その先には私たちの会社が発展をします。そうすると街の発展に結びつく。グルグル回るものだと思いますが、やはりどれが欠けても困ることだと思いますので、これからも私たちがロータリアンとして、また一企業の経営者、もしくは重要な方々がたくさんいらっしゃると思いますので、機会があれば若い人のお話を聞いたりすることも必要だと思います。

また機会がございましたらこの続きのお話をお聞きできればと思いました。

本日は、本当に短い時間でありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■浅川 正紳君 本日杉村会長の代わりを務めさせていただきます。閉会の点鐘はしっかり頑張ります。

今年度累計 472,000円

地域力を向上させるための 子供たちの学力向上・キャリア教育

NPO法人 スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長

生重 幸恵

<https://www.sanet.jp/>

北海道出身

P T A 活動から出発し、子供たちの教育活動（学校教育・学校外教育）支援を通しての「地域活性化」を目指して、近隣学校の P T A 会長経験者とともに特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワークを設立し、以来代表を務めている。2016年より、カンコー教育ソリューション研究協議会の学校担当理事として、全国の学校を回り、学校を中心に地域を巻き込むキャリア教育の啓蒙活動に邁進。

- ◆ 【文部科学省】 中央教育審議会 第9期中央審議委員
中央教育審議会 生涯学習分科会委員
中央教育審議会 高大接続特別部会委員
中央教育審議会 実践的な職業教育を行なう
新たな高等教育機関の制度化に関する特別部会委員
中央教育審議会 地域とともにある学校の在り方に
関する作業部会委員
中央教育審議会 学校地域協働部会委員
コミュニティ・スクール企画委員会委員及び推進員
(CSエグゼクティブ)
- ◆ 【内閣府】 地域活性化伝道師
- ◆ 【農水省・文科省・総務省】 三省連携事業
「こども農山漁村交流プロジェクト」推進協議会委員
- 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長
- キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表理事
- カンコー教育ソリューション研究協議会 理事

社会が変わる

少子高齢化の進展

- 将来の負担が次世代へ
- 社会全体の活力低下

社会格差の増大、固定化

- 一人一人の意欲衰退、社会の不安定化

地域社会、家族の変容

- 社会の絆の喪失、個々人の孤立化

産業構造・雇用の変化

- 失業率、非正規雇用の更なる拡大

グローバル化の進展

- 国際競争力の低下・産業等の空洞化が懸念経済規模の拡大のみの限界

現在の職業の多くは、今後なくなっていく

今後10～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高い

マイケル・A・オズボーン氏（オックスフォード大学准教授）

子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く

キャシー・デビッドソン氏（ニューヨーク市立大学大学院センター教授）

人工知能AI



金融

三菱UFJ信託、AIが運用する
投資信託

(2016年5月8日 日本経済新聞)

芸術

人工知能が描いた
「レンブラントの新作？」

(2016年4月14日 WIRED)

サービス

新宿伊勢丹で「人工知能」による接客サービス

利き酒、ソムリエ、ファッションアイテムの提案・・・
(2016年10月13日 SENSORS.jp)

教育

ジョージア工科大、TAが人工知能だったことに
学生が誰も気づかなかった (2016年5月12日 Gizmodo US)

料理

IBMのワトソンシェフが創作レシピを考案
料理本を出版へ (2015年4月10日 CBS Interactive)

医療

人工知能で病名突き止め患者の命救う

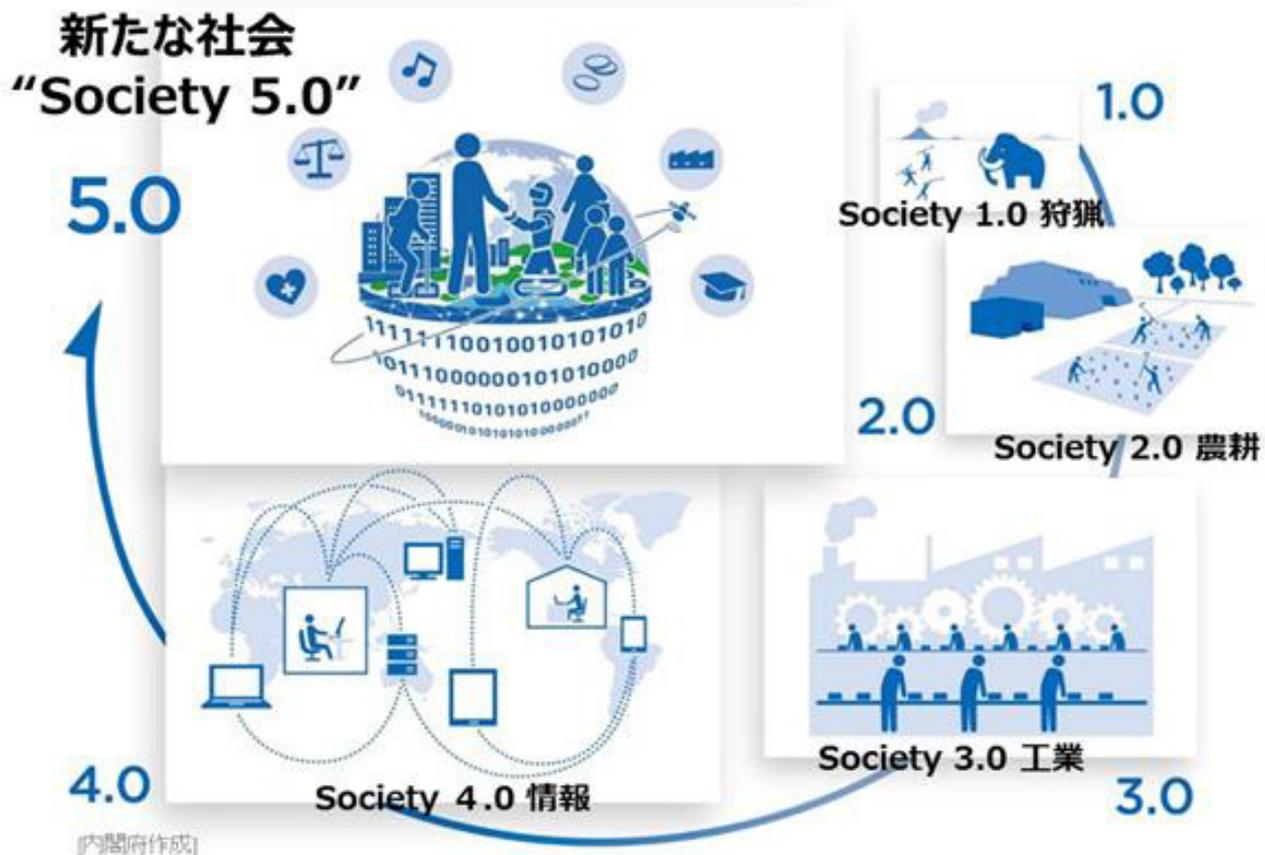
国内初 東京大学医科学研究所 (2016年8月4日 NHK)

経営

日立製作所 企業の経営判断を支援する人工
知能システムの実現へ

(2016年6月2日 日立製作所ニュースリリースより)

Society5.0とは？



サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、
経済発展と社会課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）

※日本が目指すべき未来社会の姿として内閣府が提唱

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



- 普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」
- 参画型** **全てのステークホルダーが役割を**
- 統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**
- 透明性** **定期的にフォローアップ**

前身:ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
 - 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
(①貧困・飢餓, ②初等教育, ③女性, ④乳幼児, ⑤妊産婦, ⑥疾病, ⑦環境, ⑧連帯)
- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
 - 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④, ⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ



これまでの社会

工業化社会

知識・技能の「習得」と「再生」

【情報処理力】

価値の持続継承

1人のリーダーとフォロワー

同質化社会で積み上げるキャリア

同一文化の中で暗黙の理解

これからの社会

知識基盤社会

知識・技能の「活用」

【情報編集力】

新しい価値の創造

個々人がリーダーシップを発揮

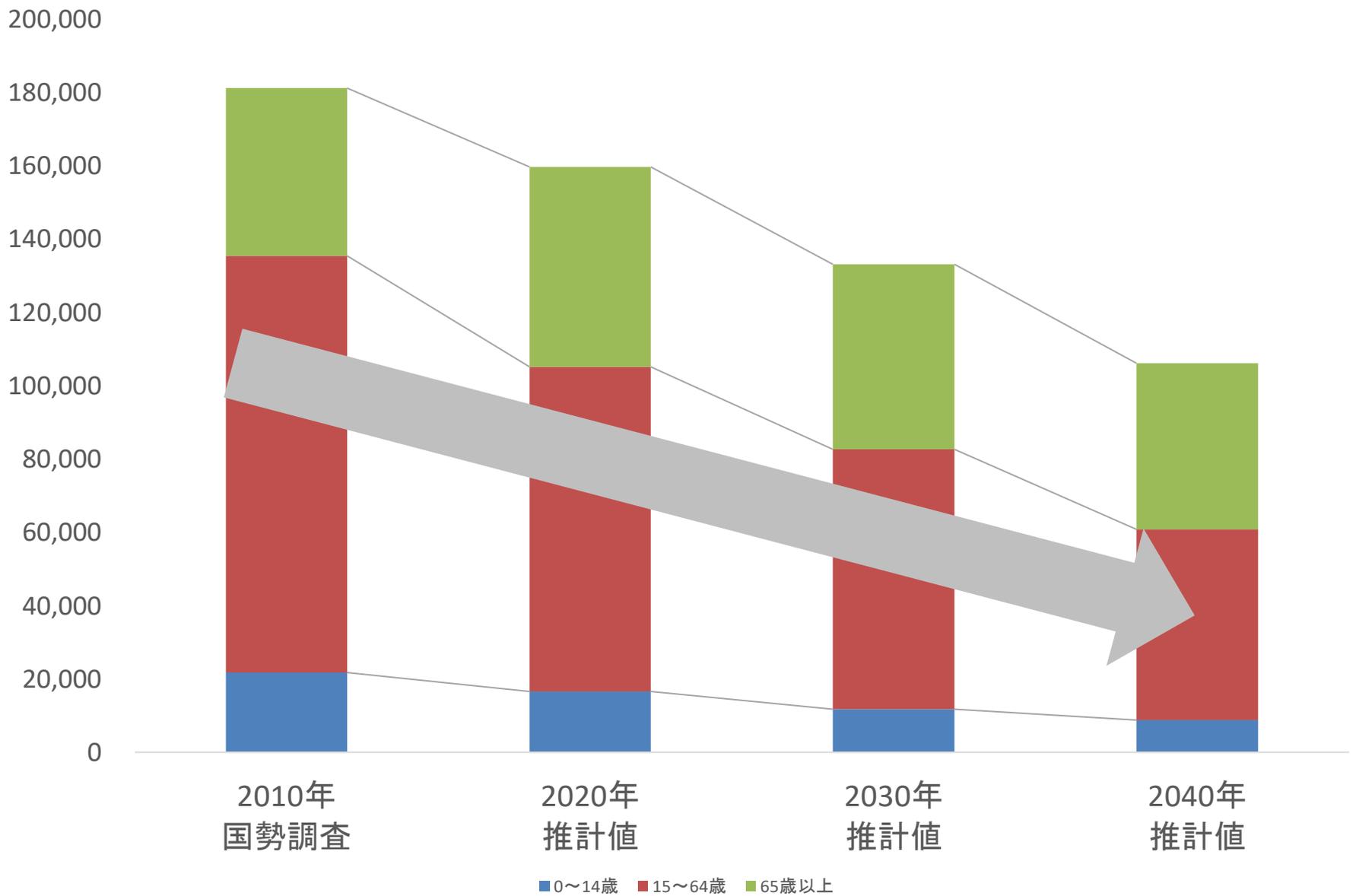
自分のキャリアを切り拓く力

異文化の中で多様性の許容

変化が激しい、予測できない社会において、必要とされる知識・能力は？

「学び続けられる人」の育成

釧路の状況 (将来人口の推移)



出所: 釧路市HPデータより

社会の変化



これからの社会で生きて
働く子どもたち



従来と同じ
教育内容、授業でいい？

学びが変わる

これからの時代においては、知識・技能とともに、
変化に対応して自ら課題を設定し、答えのない問
題に解を見い出し、他者と協働するなどしつつ、
実行、実現していくことのできる力などが特に重要で
ある。大学入学者選抜においては、各学校段階を通じたこ
のような能力等の意育成が促進されるよう、大学入学者志
願者の能力、意欲、適性等を多面的・総合的に評価
するものに転換していくことが求められる。

新しい学力観～学力の3要素～

知識・技能

十分な知識・技能を習得する

思考力 判断力 表現力

自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な「思考力・判断力・表現力等の能力」を育む

主体性 多様性 協働性

これからの時代の社会で生きていくために必要な「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養う

キーワードは、「**社会に開かれた教育課程**」

資質・能力の**要素を3つの柱**とする。

**何を知っているか、
何ができるか**

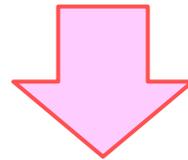
(個別の知識・技能)

**知っていること・できることを
どう使うか**

(思考力・判断力・表現力)

**どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか**

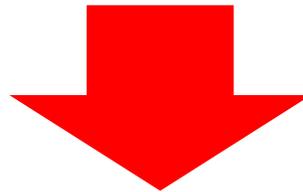
(学びに向かう力・人間性等)



**変化の中に生きる社会的存在として、
力をつける**

第1部 学習指導要領改訂の基本的な方向性

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。子供自身が興味をもって積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身についた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。



学校での学びが将来につながっているか。
志望大学へ合格するための学びでは決してないはず。

第1部 学習指導要領改訂の基本的な方向性

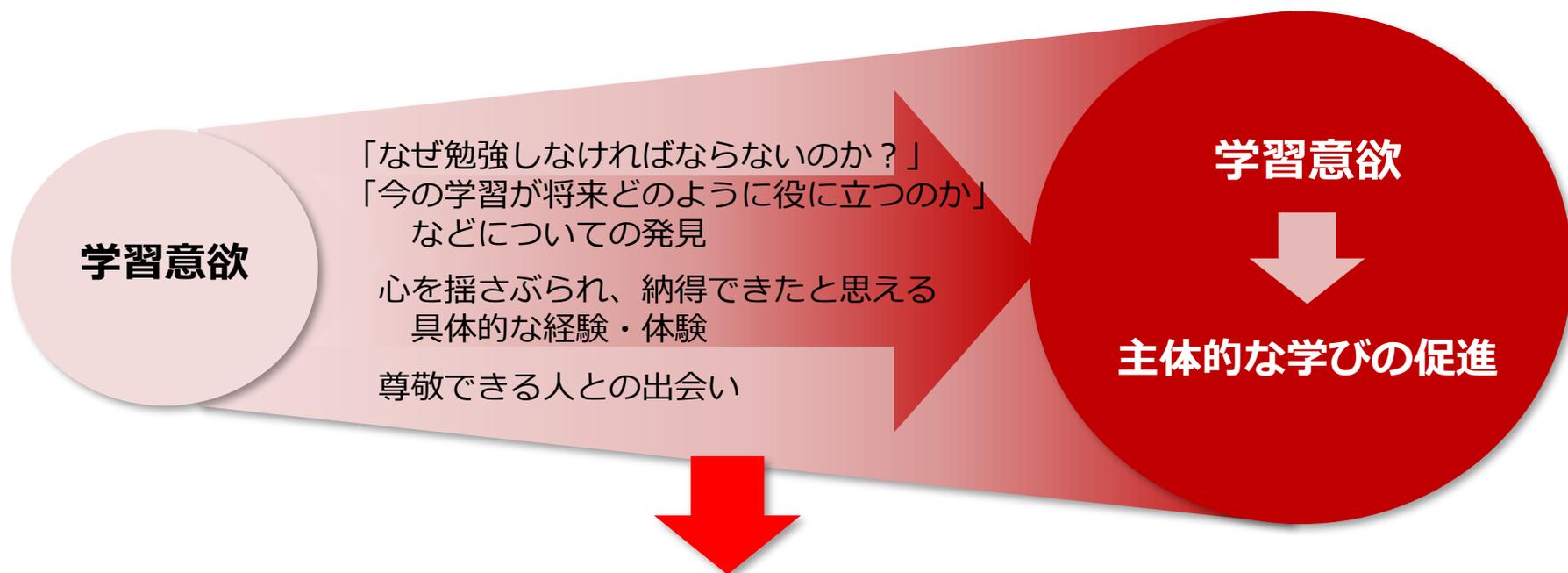
人工知能がいかに進化しようとしても、それが行っているのは与えられた目的の中での処理である。一方で人間は、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え出すことができる。

多様な文脈が複雑に入り混じった環境の中でも、場面や状況を理解して自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだしたりすることができるという強みを持っている。

このために必要な力を成長の中で育てているのが、**人間の学習**である。

現代の子どもたちが抱えている課題

- 学びに対する興味関心の希薄さ
- 体験や経験の少なさ
- 将来との関連性が見えないままでの学び
- 受験勉強偏重型が起こす、受験終了後の学びへの意欲の低下



体験を取り入れた教育が必要

- 教室が「リアルな世の中」と直結する
- 外部人材が使命感や誇りをもっている「本物の姿」に接する

体験

自らがやってみること

経験

体験により、ものの見方や考え方が形成されること

キャリア

個々が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積

豊富な体験による価値観の変容

地域と学校の連携・協働による教育の必要性



① 実社会につなぐ

- * 社会で役立つ経験をするプログラム
- * 多様なロールモデルや「本物」に触れるプログラムの充実

他者への
働きかけ

② 企業のリソースを生かす

- * 学校教育だけでは教えることが難しい
実社会の経験を踏まえたプログラム
- * 環境教育、キャリア教育、国際理解等の
企業の特徴を生かしたプログラム

外部との
相互作用

③ 学習意欲・習慣形成につなげる

- * 就学前の子供たちが学ぶ楽しさに出会うプログラム
- * 振り返り学習や発展的な学習の充実

他者との
協働

④ 「地域ならではの」

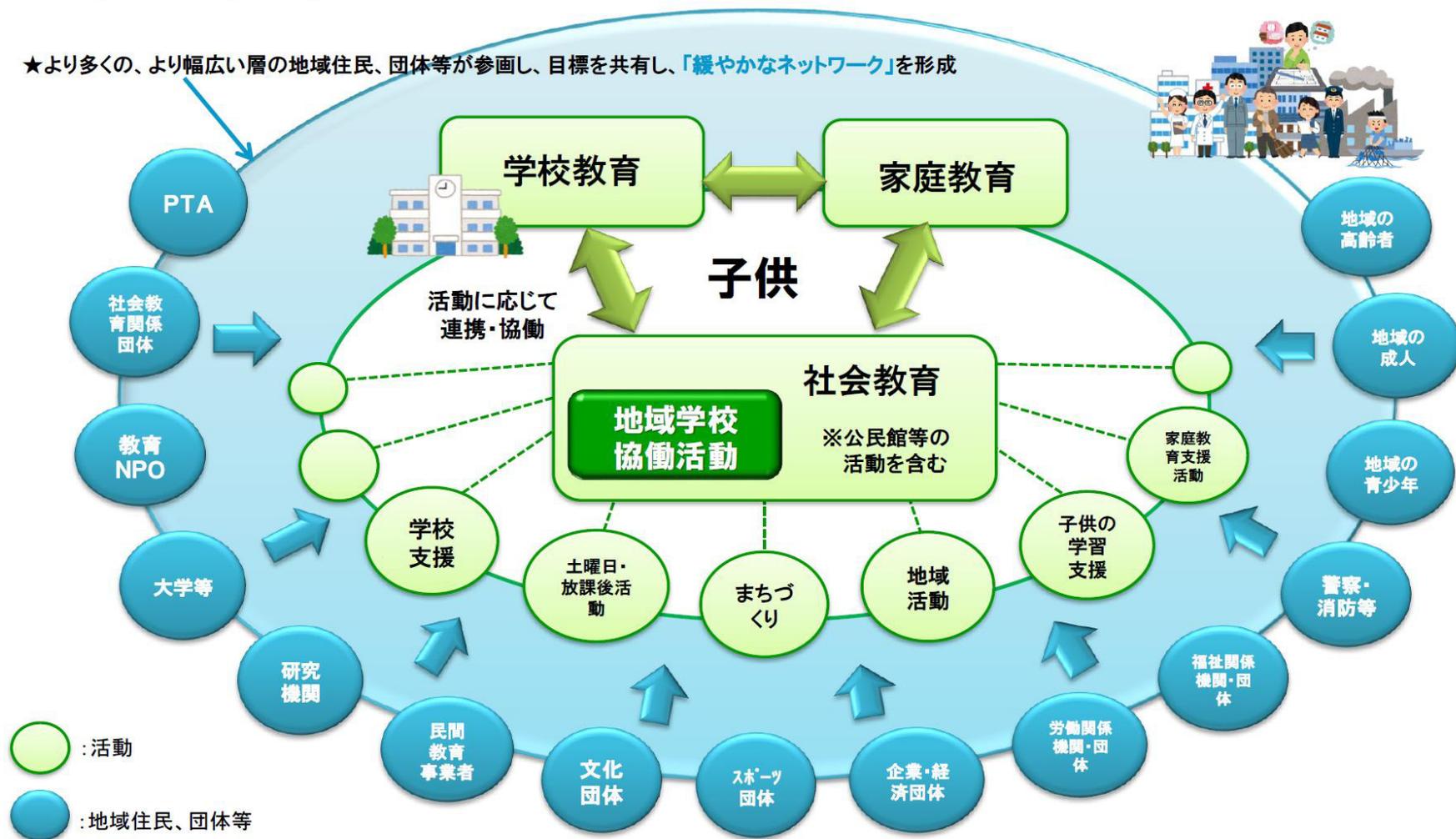
- * 地域の目標を踏まえ「ふるさと教育」や「学力向上」などの
地域の特性や課題に応じたプログラム
- * 多様性を重視したプログラム等

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み

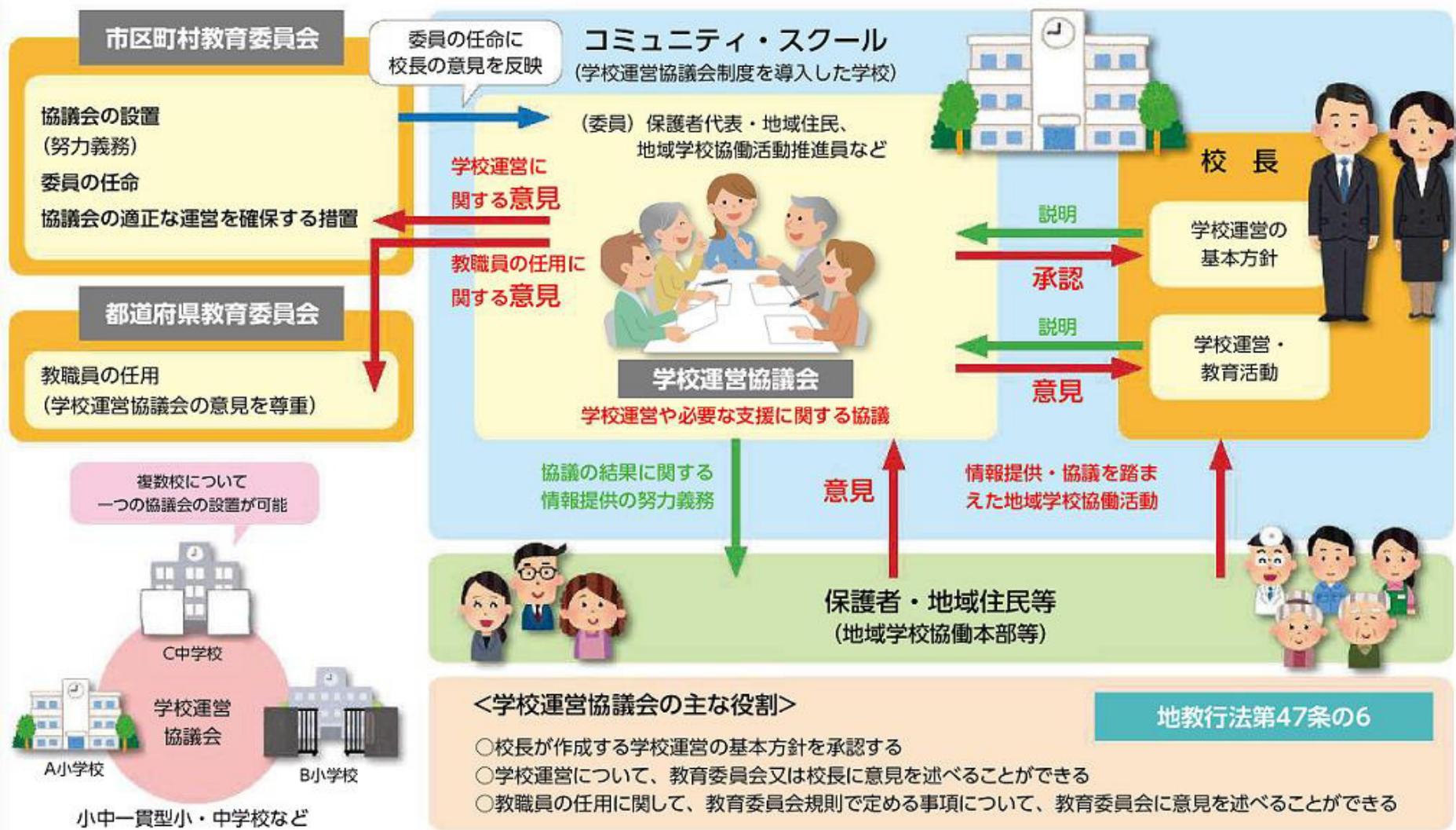
◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。

◎ 従来の地縁団体だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



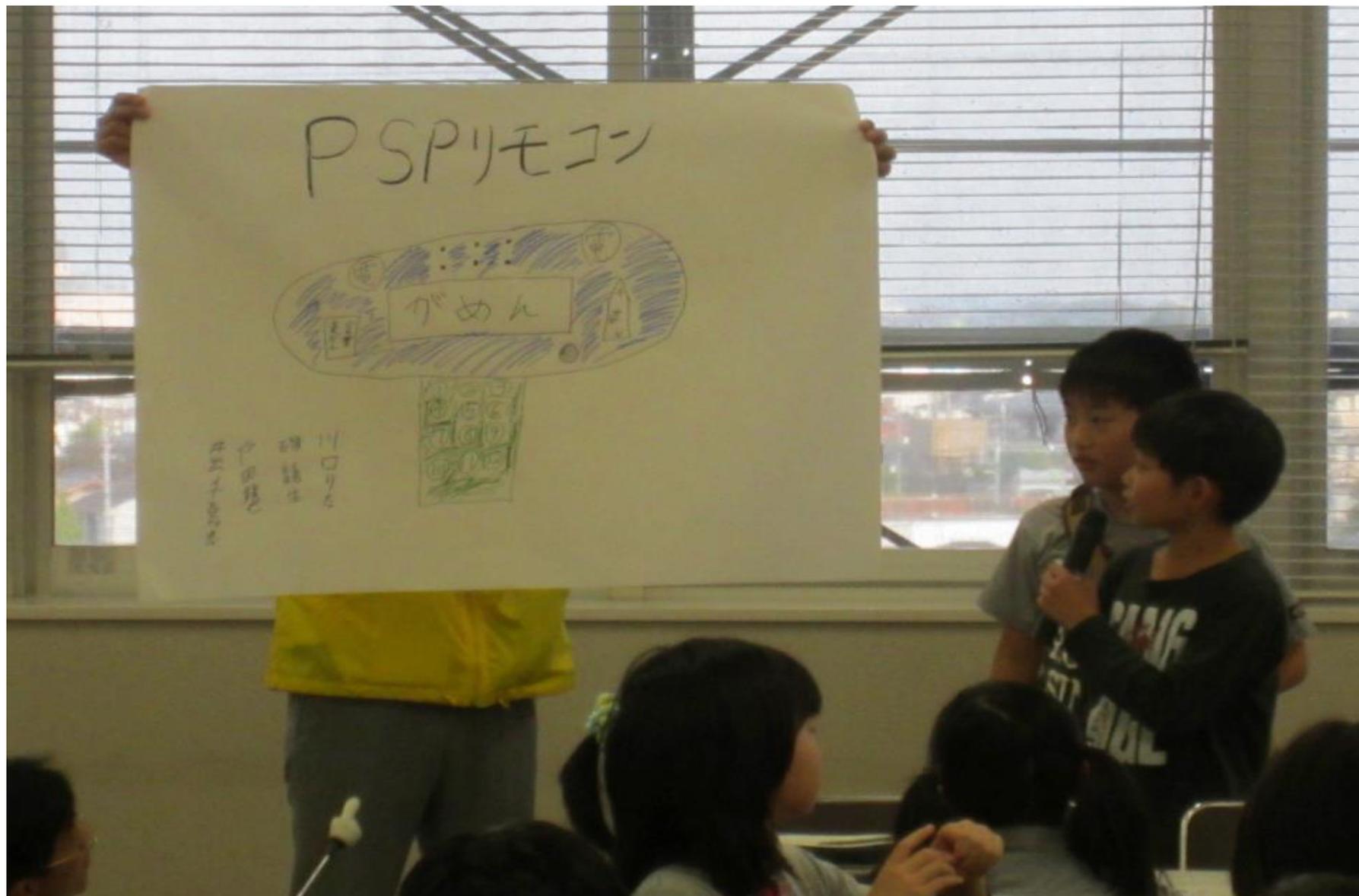
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組み



授業導入事例

企業と連携したキャリア教育①











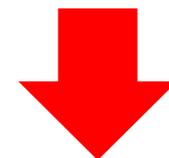




ドリームズカムトゥルー



生徒一人ひとりが
興味を持つ職業の方を訪ね
仕事の内容・仕事に
就くために必要なことを聞く



自分が夢に見る職業を
身近に感じることができる

新しい商品やサービスを企画し提案するPBL型プログラム

テーマの確認・情報収集

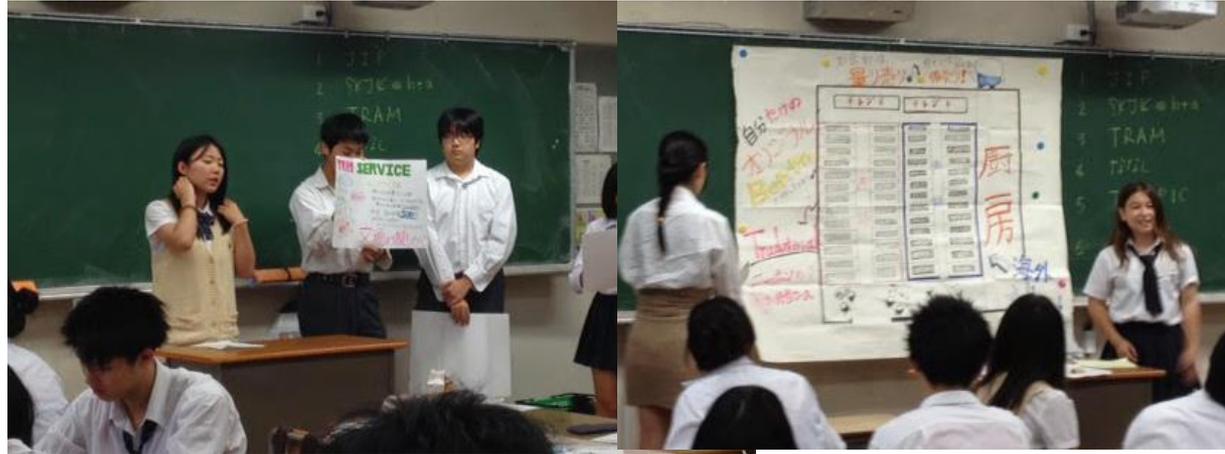
マーケティングリサーチ
(ニーズの調査)

ビジネスプランを考える

テストマーケティング
(ヒアリング)

【中間発表会】相互評価を行う

【最終発表】
社会人から評価をもらう



◆ チームで活動し、乗り越えることで他者との関係の中で役割を果たす必要性を知る（人間関係形成・社会形成）

◆ 社会人からビジネス視点の評価をもらうことで、社会に求められる能力に気づく（課題対応能力）

職業人講話（小学校～高校）

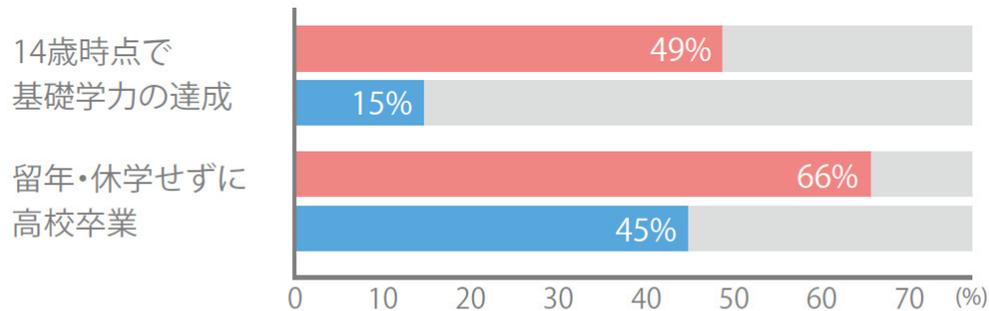


- ◆職業について調べることで、自身の将来について考える。
- ◆働く人から直接話を聞くことで、働くことや職業について理解する。
(キャリアプランニング能力)

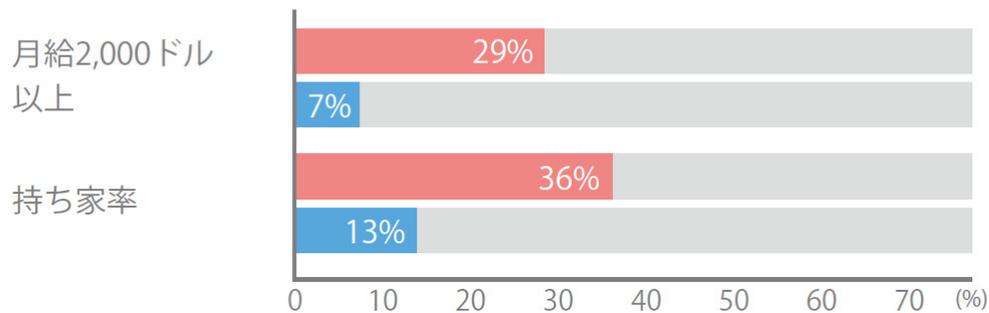
WHAT'S NON COGNITIVE SKILLS ?

非認知能力の向上が子どもの将来に影響を与える

教育的効果



40歳時点での経済効果



これからは意欲や自信、
自制心やおもいやりなど
目にみえにくい
非認知能力に着目して
高めていかなければいけない



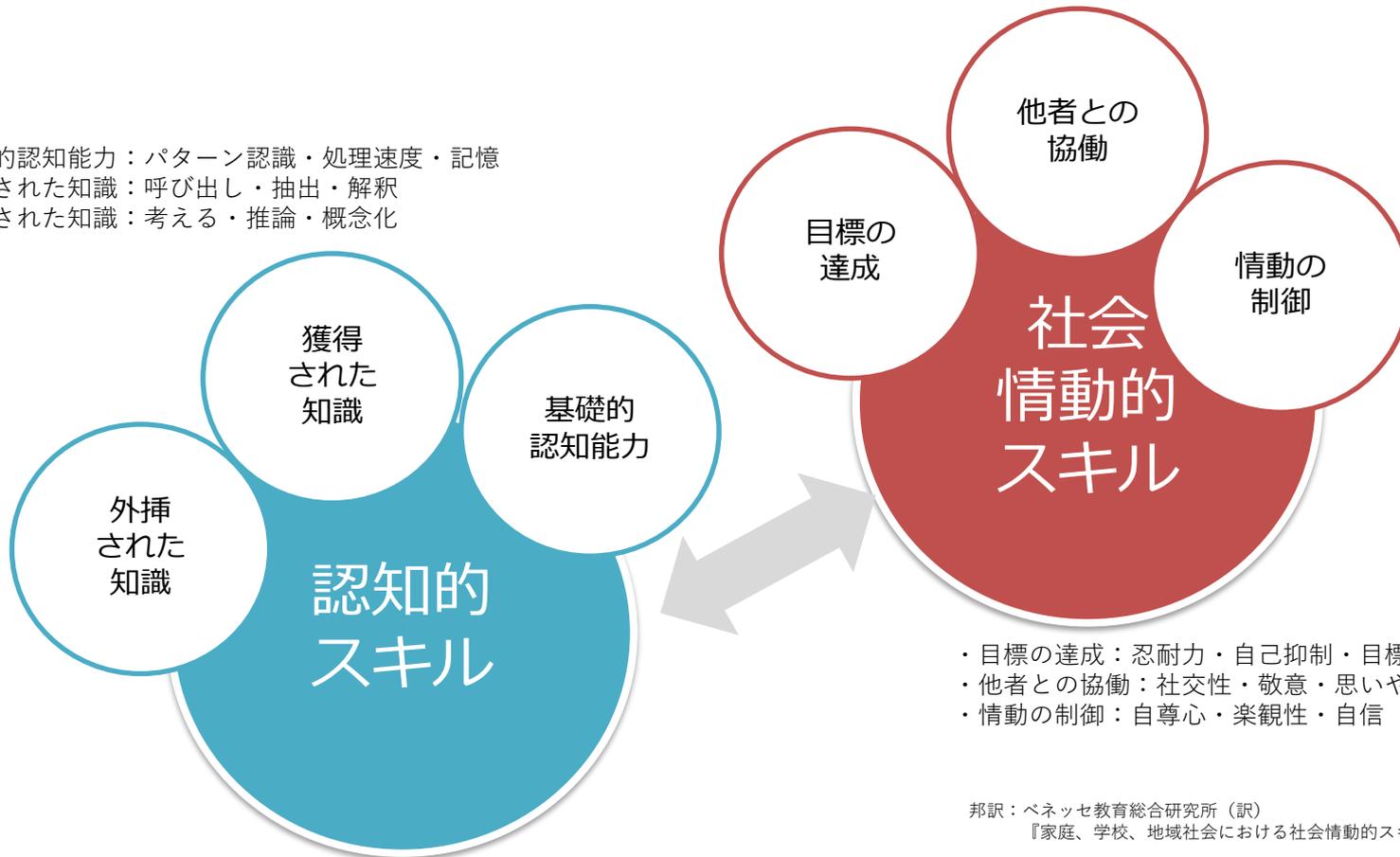
ジェームズ・ヘックマン

■ 就学前教育を受けた子ども
■ 就学前教育を受けなかった子ども

WHAT'S NON COGNITIVE SKILLS ?

OECD (2015) による社会情動的スキル

- ・ 基礎的認知能力：パターン認識・処理速度・記憶
- ・ 獲得された知識：呼び出し・抽出・解釈
- ・ 外挿された知識：考える・推論・概念化



- ・ 目標の達成：忍耐力・自己抑制・目標への情熱
- ・ 他者との協働：社交性・敬意・思いやり
- ・ 情動の制御：自尊心・楽観性・自信



Ancs
program

認知的能力
Cognitive Skills

IQ（知能指数）や学力など
数値化が可能な能力

相互作用的
関係にある



非認知的能力
Non Cognitive Skills

生きていくために大切な情緒
目標に向かう力・他者協働の力
（社会情動的スキル）



プラスの影響
（情緒の安定・意欲や向上心 ¥ 他者とのかかわり）